

新潟県 行政視察研修報告

嘉手納町議会 建設経済常任委員会

委員長 古謝 友義

副委員長 新垣 貴人

委員 當山 均

志喜屋 孝也

仲村 一

視察先 新潟県 佐渡市 聖籠町 田上町

日程 平成 29 年 11 月 28 日～12 月 1 日

出席委員 古謝友義、新垣貴人、當山均

志喜屋孝也、仲村一、徳里直樹

事務局 前川広充

佐渡市

(1) 移住、定住支援の取り組みについて

佐渡の現状：佐渡市は高校卒業とともに多くの若者が島を離れ、自然減と合わせ年間千人規模で人口減少が進んでいる現状に U、I ターンを促進し人口増加による地域の活性化を目指している。

①移住・定住支援の概要及び実績

○PR、情報提供：佐渡情報誌発行、H P、首都圏イベントでの情報発信

- 誘導策 ： 移住体験モニターツアー、定住体験住宅の貸出、
空き家現地視察に係る旅費補助、移住コンシェルジュ制度
- 受入支援 ： 空き家の活用（空き家情報システム・空き家改修補助）
若者定住対策（家賃を月額上限 2 万円として 1 年間補助）
- 移住相談体制 ： H29 年 4 月、佐渡 UI ターンサポートセンター開設、
移住相談迷子をなくし、住む・働く・暮らすトータル
相談ができる島内サポート体制の構築。
- ②事業実績 平成 28 年度 移住組数：70 組（内若者世帯 40 組）
- ③事業実施に係る財源 国土交通省の定住の促進を図るため創設した
離島活性化交付金を活用。

(2) 地域経済活性化（プレミアム商品券）について

佐渡市の経済状況は、景気の低迷から抜け出さない状況にあり、緊急経済対策の必要性から事業を実施。

①事業概要及び経緯

市内消費の喚起による内需拡大と商店街活性化による商業振興を図る
目的に、プレミアム付き市内共通商品券を発行する。

○プレミアム 40%の商品券発行事業

商品券は、全取扱登録店で利用できる「どこでも券」と市内に本店のある取扱登録店でのみ利用できる「ここだけ券」の 7,000 円分の商品券を 1 セットとして、5,000 円で販売する。

○販売方法

往復はがきによる事前申込制（返信はがきによる結果通知）

②事業実績及び事業導入効果

発行規模 1 億 5,750 万円

経済波及 2 億 4,200 万円

③事業実施に係る財源内訳

自主財源（5,000 万円）



(3) 観光振興への取り組みについて

成長力強化戦略

1. 産業の振興
2. 観光等交流人口の拡大
3. 交通インフラの整備
4. 安全・安心な地域づくり
5. 佐渡活性化のための人材の育成・確保

佐渡版 地方創生総合戦略としての基本理念

“歴史と文化が薫り、自然と人が共生できる美しい島”

①地方 PR 動画発信による効果

1. ファイルムコミッションによる映画・番組誘致
2. 佐渡 3 資産を体験する、着地型プログラム

②観光客誘致への取り組み

1. ターゲット別戦略事業～顧客別ニーズにあった誘客促進



佐渡市 視察研修所感

- 定住・移住対策事業は地域事情に違いはあるが、行政普通財産の活用や地域の空き家に助成金を支援することで利活用の拡大できるメリットについて調査・研究を図りたい。
- プレミアム商品券40%には地域事情に合わせた設定であること。また販売方法については嘉手納町のプレミアム商品券事業の課題解決の糸口を感じ、継続して調査・研究を図りたい。
- 観光振興について、地域資源の良さを再発見し、広報する仕組み、地元の人々が一致団結し取組まないと観光振興は図れないことを感じた。本町の地域資源の広報、再資源の発掘、情報発信について調査・研究を図りたい。

聖籠町

(1) 生ゴミ堆肥化事業について

可燃ゴミの減量化のため、今まで廃棄していた家庭から出る生ゴミを堆肥として農地へ還元し地域資源の有効活用と循環型システムの構築を図る目的で、生ゴミ堆肥化施設を設置し、家庭生ゴミの堆肥化を行っている。

①事業導入に至った経緯

平成 18 年 モデル事業開始 3 集落約 200 世帯と給食の残飯を堆肥化

平成 21 年 モデル集落を 9 集落 450 世帯に拡大

平成 22 年 生ゴミ堆肥化施設の建設

平成 24 年 全町の生ゴミ収集を開始

平成 25 年 生ゴミ堆肥の一般販売開始 10kg : 100 円

平成 27 年 生ゴミ堆肥化施設管理運営を「NPO 法人 環境美化ネット
せいろう」に委託
生ゴミ専用袋を購入（5ℓ、20 枚入り：100 円）

②事業導入に係る財源等内訳について

国からのバイオマス地域利活用交付金 を活用（交付率 50%）

平成 22 年：事業費 93,313,500 円（交付金：46,656,750 円）

平成 23 年：事業費 83,475,000 円（交付金：41,737,000 円）

○施設概要

建 物：木造平屋建 247 m²（約 75 坪） 事業費：28,665,000 円

機械施設 生ゴミ処理器 3 台 乾燥貯留機 1 台 (5 トン)

生ゴミ投入機 2 台 脱臭装置 3 台

ボイラー設備等 事業費 145,950,000 円

事業費合計 176,788,500 円



生ごみ堆肥化施設



収集業者が専用トラックで収集したパケツを荷おろし



生ごみ投入機に乗せて生ごみを処理器へ投入



生ごみ処理器で24時間処理。



堆肥化された生ごみを乾燥貯留機で調製



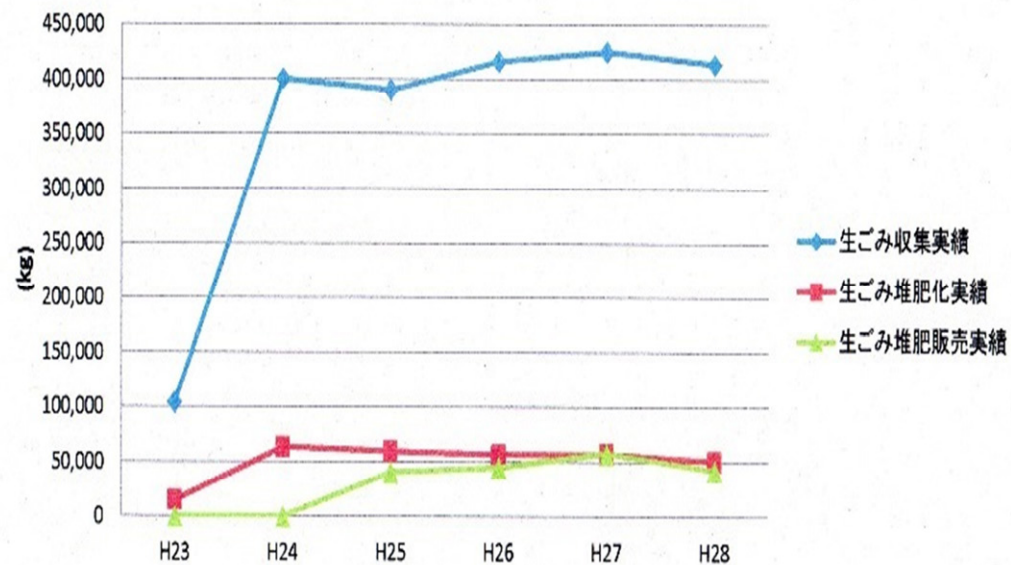
肥料を袋詰めし、製品化

②事業導入後の効果について

嘉手納町議会研修資料(No.3-3)

◎生ごみ収集実績等の推移

	(kg)					
	H23	H24	H25	H26	H27	H28
生ごみ収集実績	104,310	400,451	390,043	416,383	425,306	414,064
生ごみ堆肥化実績	15,080	63,890	59,740	56,940	57,260	51,010
生ごみ堆肥販売実績	無料配布	無料配布	40,610	45,410	58,380	42,910



○運営経費

平成 28 年度決算額

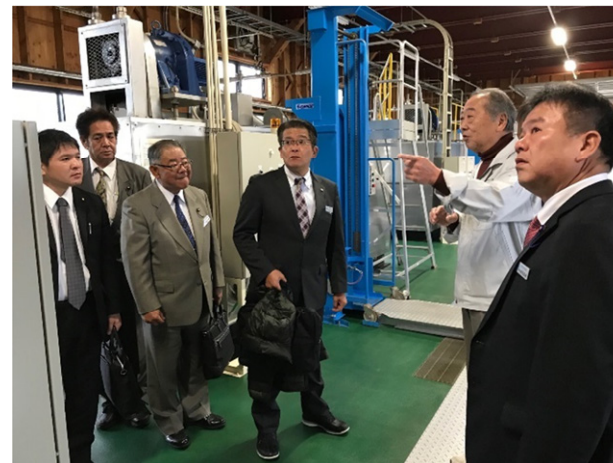
①生ゴミ収集運搬業務委託料（294 カ所）	31,558,000 円
②生ゴミ堆肥化施設管理運営業務委託料	15,385,000 円
③生ゴミ袋購入費	570,000 円
④生ゴミ堆肥袋	196,000 円
⑤生ゴミ回収ポリバケツ	275,000 円

計 47,984,000 円

○生ゴミ堆肥売却金 429,100 円

聖籠町 視察研修所感

- ごみの分別辞典等、詳細な内容を住民に周知がなされており、意識の高さが伺えた。
- 嘉手納町のごみ分別の周知方法や記載など調査研究し反映させたい。
- 生ごみの堆肥化について詳細な調査・研究を重ねたい。



田上町

(1) 重点「道の駅」たがみについて

田上町の総人口は平成 12 年の 13,643 人をピークに減少傾向。平成 22 年の高齢化比率は 26.7%と人口減少と高齢化が進んでいる。また、温泉等の観光資源もあるが観光客は減少傾向。平成 23 年、町民意識調査では、買い物が不便なところ、魅力ある働き場が少ないなど課題を抱えている現状に町民の定住環境の向上と町の活性化の起爆剤とするため道の駅整備を計画した。

①「道の駅」の整備コンセプト

～近き者よろこびて、遠く者来る～

「道の駅」整備の3つの方針

方針1：町民とつながり、喜ばれ愛される施設であること

方針2：地域社会とつながり、安全安心を支える施設であること

方針3：多様な交流でつながり、賑わう施設であること

②事業概要（年次スケジュール）

平成28年：地域住民への周知～道の駅整備検討委員会による協議

関係機関協議(国土交通省・新潟県・大学)

平成29年：測量・ボーリング調査・実施設計

平成30年～31年：工事（建築物・外構）

平成32年：供用開始

田上町 視察研修所感

- 町民の生活環境課題の解決を主に高齢者が、社会参加し、活躍・交流ができる場の確保や買い物不便への解消、外部との交流拠点に生きがいづくり、農業の活性化、温泉地などの観光産業への活性化、中心となる町役場付近に行政・生活サービスの機能を集積させ拠点化を図るなど、嘉手納町に学ぶことが多い。改めて、道の駅「かでな」について調査・研究を図りたい。